

コムハウス&ねくすと通信

つうしん

2022年 2月 25日

コムハウス・ねくすと発行

No. 1138

～春は名のみの 風の寒さや 谷のうぐいす 歌は思えど(「早春賦」より)～

立春を過ぎてから早くも3週間になります。冬と春を行ったり来たりして、なかなか春になりませんが、日の出や日の入りの時刻、昼間の日差しの暖かさ、木々の芽吹きを見つけ、ようやく訪れた春を感じる事が出来ます。

この季節になると、ふと「早春賦」をロクさんでしまいます。小学校か中学校の時に習った曲ですが、大人になった今では、遅い春を待ちわびて心躍らせるといった歌詞にとっても共感しています。

この曲を作詞された吉丸一昌さんが、安曇野を訪れ穂高町あたりの雪解け風景に感銘を受けて、この詩を書き上げたとされているそうです。穂高川の堤防沿いには、早春賦を記念して建てられた歌碑があります。隣にはソーラー電池式のオルゴールが設置されていて、早春賦のメロディーが聴けます。北アルプスの山々を見渡せる遊歩道には桜の木が植えられていて、春になるときれいな花を咲かせます。暖かくなったら、また行ってみようと思う今日この頃です。

春日

😊 すまいる班

今週のすまいる玉り玉は

部屋のかざりを作りました。
なかまは、しかり身を動かして
貝とてくれました。

祝日開所では、ミニシアターでジブリを
見ました。なかまは楽しんでいた。(11月の歌)
音楽では、新しい専攻員の百瀬さんの
紹介をしました。



こもれび班

打撃が自粛が続くからですが、それぞれ
できるお仕事を頑張ってます。

今週の祝日開所はさらに少ない人数
だったので、換気をし、ソーシャルディスタンス
をとりながら、こもれびのみんなでお弁当
を食べました😊

おしゃべりを楽しみながら食べることはできま
せんでしたが、みんなで食べるご飯は
やっぱりおいしいですね。



ねくすと

25日(金) 浅川 偉策さんの成人を祝う会が

ありました。コロナの影響で延期となっていましたか、
行くことができました。

これからの偉策さんの成長が楽しみです。